
キスダンク ～燐光学園編～

クロガミ猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キスダンク ～燐光学園編～

【Nコード】

N1508V

【作者名】

クロガミ猫

【あらすじ】

部活で活発な学園として有名な燐光学園

そこでは活発であれば生き残り、そうでなければ退部。

そんな弱肉強食で生き残ろうとする【バスケットボール部】

学園内での戦いが始まっていた。

1学期が始まる春。

桃色の花びらが校門の上を舞う。

そこには、今年から入学するものや進級した学生達が通っていく。

「ふえ〜……。もう学校だよ……。。」

「まだ言ってるの？さっさとシャキつとしなさいよ。」

校門で嘆く少女 高宮 桜。

身長が小さく、よく小学生や中学生に見られてしまう。

そして、いつも傍にるのは 香取 美沙。

高宮とは違い、長身でルックスもまったく問題がない。
そんな高宮と香取は幼稚園からの幼馴染である。

「私達ももう2年生か〜。早いね〜。」

「期末試験前に私の部屋で徹夜して慌てて勉強しておいて何言ってるのよ。」

「うっ……。うるさい！それほど部活を頑張ってたの！！」

会話を続けていると、玄関を通り抜け教室へと入る。

「おっはよー！」

元気よく高宮が教室に入ると、そこには誰も居なかった。

「あ……あれね？」

「あっ！……！」

すると、香取が何かを思い出したように手を叩く。

「今日は部活の部員勧誘の日じゃない……！」

「そ……そんな日あったっけ……？」

「この学校の理事長が今年からって決めてたのよ！早く行くよ！」

「あぁん！ちょっと待ってよ……！」

2人は体育館に向けて走っていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1508v/>

キスダンク ~ 燐光学園編 ~

2011年10月8日22時15分発行